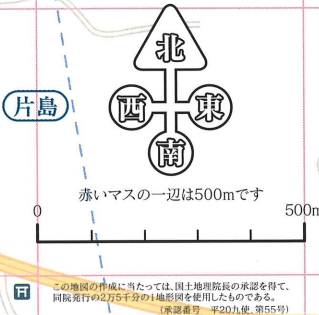


松岡校区 歴史マップ

古墳鎮まる小牧山 昔に学び友とふれあう 和やかな街



この地図の作成に当たっては、国土院院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1縮尺図を使用したものである。
(承認番号 平20九保 第15号)

- 歴史散策コース A** 往復約5km
松岡南部・小牧山古墳群コース
1. 虚空蔵菩薩御堂
 2. 薬師堂と芭蕉句碑
 3. 耕地整理之碑
 4. 御手洗神社
 5. 飛龍山浄雲寺
 6. 京ヶ尾銅矛出土地
 7. 小牧山古墳群
 8. 勝地天満宮
 9. 一升谷川隧道碑
 10. 舟本の渡し跡

- 総合学習コース** 往復約3km
13. 松岡小学校・クスノキ
 14. 松岡山長興寺
 4. 御手洗神社
 5. 飛龍山浄雲寺
 7. 小牧山古墳群
 8. 勝地天満宮
 9. 一升谷川隧道碑
 3. 耕地整理之碑
 2. 薬師堂と芭蕉句碑

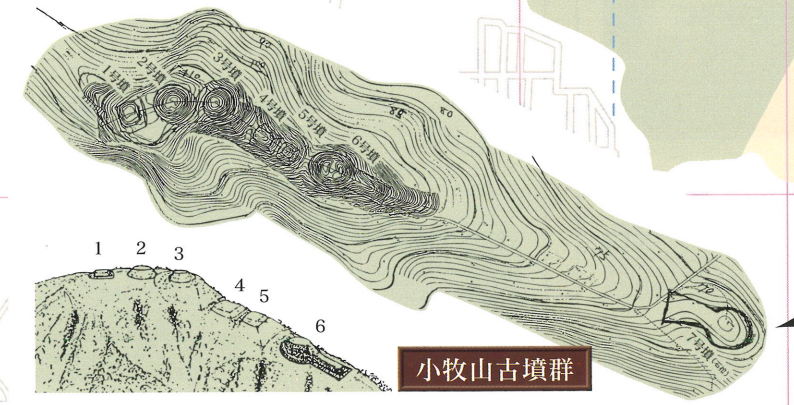
- 歴史散策コース B** 往復約5km
松岡中部・道祖神群コース
11. 金刀比羅社
 12. 道路拡張記念碑
 13. 松岡小学校・クスノキ
 14. 松岡山長興寺
 15. 戦没者墓碑と慰霊碑
 16. 一の谷溜池と耕地整理碑
 17. 一の谷横穴墓群
 18. 地蔵菩薩と道祖神群

- 歴史散策コース C** 往復約6km
松岡北部・古窯跡群コース
19. 溢流堤と乙津川導水路
 20. 大津留分村記念碑
 21. 北鼻川排水機場
 22. 毛井八幡社と区画整理記念碑
 23. 昭和18年大野川氾濫水位プレート
 24. 法雨山龍泉寺
 25. 真萱天満宮と松岡神楽
 26. 尾崎天満宮と大乘妙典塔
 27. 庵跡と十六羅漢像
 29. 虫喰谷遺跡
 30. 松岡古窯跡群

凡例

- バス停
- 駐車場
- 郵便局
- 駐在所
- 学校
- 寺院
- 神社
- ガソリンスタンド
- 病院

お問い合わせは
大分市鶴崎支所 ☎(097) 527-2111
松岡校区公民館 ☎(097) 520-0507



小牧山古墳群



松岡校区歴史マップ

～古墳鎮まる小牧山 昔に学び友とふれあう 和やかな街～

Aコース (小牧山古墳群コース)

1 虚空蔵菩薩御堂

かつてこの地区に法蓮寺という寺院がありましたが、天正14年(1586)島津軍の兵火で焼失、焼け跡に残っていた虚空蔵菩薩(高さ約30cm)を、御堂を建立してお祀りしたと伝えられています。



2 薬師堂と芭蕉句碑

文政11年(1828)安藤家の人によって建立されたものです。治病や施薬、特に眼病を治す仏として信じられ、「やくっさん」と親しまれています。同所には安藤石友建立の芭蕉句碑と宝篋印塔があります。



3 耕地整理之碑

明治の末、この地域の水田は8町5段、農耕地のおよそ65%は畑でした。大谷溜池の大改修工事と、新たにグミヶ谷溜池を築いて、耕地整理をした結果、約24町歩の水田を開くことができました。

4 御手洗神社

寛治元年(1087)宇佐八幡宮の分霊を勧請し創建されました。建久4年(1193)春日の大神を合祀、又北野天満宮の大神を合祀し今日に至っています。拝殿・幣殿は平成20年改築されました。境内には安藤石友建立の芭蕉句碑があります。



5 飛龍山浄雲寺

真宗大谷派。本尊 阿彌陀如来。室町時代に判田より松岡に移転し、文明17年(1485)本願寺の門徒になりました。鐘楼、庫裡、山門、経蔵は江戸時代中期の建築物で、本堂は明治15年(1882)新築されたものです。境内には安藤石友建立の芭蕉句碑が2基あります。



本堂は総檜造り。その資材は名古屋より運ばれ、柱は全て丸柱。外陣は小組格天井、内陣は二重折上小組格天井など、真宗の本堂としては九州屈指の建築物です。京都東本願寺御影堂を建てた寺大工伊藤氏の作です。



6 京ヶ尾銅矛出土地

標高100mの京ヶ尾丘陵地で、約250年前、成松の住人が5振り程度の銅矛を発見しました。弥生時代(西暦前200年頃)のもので、2振りとは東京国立博物館蔵、2振りとは当時の統治者であった延岡藩(宮崎県)へ1振りは成松に有るとされています。この地の東側約90haは、平成9年(1997)より宅地に開発されています。

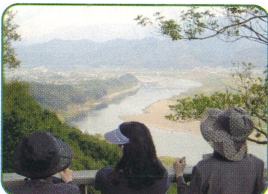


7 小牧山古墳群

小牧山の標高70m～110mの尾根約350mの間に、方形墳・円形墳・前方後円墳(古墳時代前期・4世紀頃)など、3種類・7基の古墳が並んでいます。明治の初め、7号墳付近で箱型石棺を近くの子どもが発見、昭和になって同じ場所から船載鏡(大分市歴史資料館に展示)や石鏃(やじり)などが出土しています。



山頂には展望台があって、大野川や戸次・松岡の景観を望むことができます。森には校区の子ども達が作った巣箱がかけられています。



8 勝地天満宮

祭神は菅原大神ほか四神。慶長元年(1596)中尾義政が勧請して創建、延宝7年(1679)中尾義文が池ノ上村(現在地)に移転、文政11年(1828)4月社殿を再建、現在に至っています。御神木のクスノキは大分市の名木に指定されています。



9 一升谷川隧道碑

江戸時代の頃の一升谷川(東川)は、大雨が降ると氾濫して災害をおこしていました。分水して直接大野川へ流せば災害を防止できると、嘉永7年(1854)約300mの分水隧道を完成しました。記念碑は勝地天満宮の境内にあります。



10 舟本の渡し跡

渡し跡は舟本大橋の約300m上流、松岡小学校の大野川の自然体験学習の場になっている付近です。渡し舟は二十石船で、江戸時代は大船から鶴崎まで、米や新穀の運搬に使われた舟でした。舟本区民が交替で船頭をしていますが、車社会になって利用者が減少し、昭和49年(1974)頃廃止されました。



Bコース (道祖神群コース)

11 金刀比羅社

江戸時代も末の頃、松岡・毛井・宮河内の各村の間で境界争いが起こりました。上告しましたが決着がつかないので、四国の金毘羅様へ祈願したところ、すぐに解決したので、お礼の気持ちをごめて、元治元年(1864)讃岐より御分霊を勧請し、下松岡の地にお祀りしたいとされています。御神木のムクノキは大分市名木に指定されています。



12 道路拡張記念碑

昭和の初め、上・下松岡の里道は狭かったので区民に呼びかけて、上・下松岡の中央を東西に走って県道につながる5本の主要道路と、これをつなぐ南北へ走る道路1本(全長1996m)を拡張整備しました。昭和12年(1937)竣工を祝って記念碑が建立されました。



13 松岡小学校・クスノキ

明治8年(1875)10月、菰田の民家を借りて仮校舎で松岡小学校が創立されました。3年後大宇松岡(谷川)に校舎が新築され移転しました。その後児童数の増加により、明治35年(1902)現在地に二階建新校舎を建築し再移転しました。クスノキは、当時4年生だった児童が、家から苗木を持って来て同級生と植えたものです。



14 松岡山長興寺

臨濟宗・妙心寺派。本尊 十一面観世音菩薩。嘉元2年(1304)要翁和尚によって開山されました。七堂伽藍を擁する大寺院でしたが、島津軍の兵火で焼失。宝永3年(1705)達道和尚によって再興され、寛政12年(1800)大頂和尚によって現在の姿に復興しました。山門を入ると正面に「覺皇殿」(額は大頂和尚明和8年(1771)の筆)があります。境内には明和2年(1765)建立の六道能化地藏尊、農家の牛の供養で天保8年(1837)建立したという大白牛の仏像があります。



15 戦没者墓碑と慰霊碑

昭和32年(1957)9月、松岡校区遺族会の有志によって、忠魂碑と戦没者の墓碑が建立されました。ここには明治27年(1894)の日清戦争から太平洋戦争が終結した昭和20年(1945)までの松岡出身戦没者173柱の墓碑があります。戦没年齢は20歳からでしたが、墓碑に刻まれた年齢をみると、18歳、19歳の方々もおられます。



16 一の谷溜池と耕地整理碑

一の谷溜池は一ノ谷と大久保溜池の総称です。堤防の長さ94m、貯水量約7万トン、里山に囲まれて水量は豊富です。溜池から水を引く290mのトンネル工事、米良へ通じる幹線道路の取り付けなどの難工事を明治41年(1908)に着工、44年に完成しました。耕地整理の結果41町8反(うち新田20町歩)の水田を潤しました。大正15年(1926)に建立の記念碑は宮地嶽神社の境内にあります。



17 一の谷横穴墓群

一の谷大久保溜池の下流約100m～200mの所にあります。横穴墓群は山の中腹を削り、数多くの横穴を掘って死者を葬る方法です。森林に覆われていますが、一の谷川の左岸側斜面に27個、右岸側斜面に13個の墓群が確認されています。



18 地藏菩薩と道祖神群

地藏菩薩は長興寺の大頂和尚が享和元年(1801)、松岡字地藏野の石書塚の上に建立しました。願主府内某と刻まれているのは、府内城の姫の病氣快復祈願のためと伝えられています。その後、安政2年(1855)府内へ通う道の要所に三十数体の道祖神が置かれました。十八番の道祖神には「右ツギ、左みやかわち」と刻まれています。



Cコース (古窯跡群コース)

19 溢流堤と乙津川導水路

昭和37年(1962)大野川の治水対策として、洪水時は毎秒1500トンを乙津川へ分流する溢流堤が完成しました。その後、流域の家庭排水や工場排水によって、乙津川の汚れがひどくなったので、溢流堤の下を貫通する導水路を設け、毎秒4トンの水を常時流入して、乙津川を浄化しています。



20 大津留分村記念碑

溢流堤の位置を決めるため、当時の建設省は東京の荒川で3年間大型模型実験を行いました。位置が決まって大津留地区は2分されることになり、反対運動が6年間続きましたが、昭和33年(1958)分村を決定し、8軒が松岡字南河原へ集団移転しました。移転20周年を迎えて、大津留天満宮境内に分村記念碑を建立しました。



21 北鼻川排水機場

内水被害軽減のため、平成17年排水機場新設が確定。総工費16億円・4年の歳月をかけて20年7月完成しました。毎秒14m³(7m³/s×2)排水、ポンプの口径1650mm立型ガスタービン2基で排水ポンプを駆動し排水します。



22 毛井八幡社と区画整理記念碑

9世紀の頃、毛井地区一帯は国の直轄領でした。大野川下流における官道の渡河点で、渡河の安全を守る交通守護神として、毛井社10町を社領としていました。嘉禄2年(1236)毛井地頭職として平林頼宗が下向の時、鶴岡八幡宮を分祀・豊後の国毛井八幡社としました。境内に毛井地区の区画整理記念碑があります。



23 昭和18年大野川氾濫水位プレート

昭和18年(1943)9月20日の台風26号の降水量は577mmに達し、大野川は氾濫、水勢は堤防を決壊、家屋をのみこみ死者59名、流失家屋197戸をだす災害をもたらしました。その時の水位を後世に残し、防災意識を高め、水害に備えておくよう、壁面にプレートを取り付けました。



24 法雨山龍泉寺

浄土宗・西儀派。本尊 阿彌陀如来。慶長13年(1608)臼杵藩主稲葉貞通公の寄付により円覚路上人が開山。その後大火により焼失、弘化3年(1846)20世祥雲天瑞上人の時再建。昭和33年(1958)大野川改修工事に伴い現在地に本堂、鐘楼を解体移転しました。



25 真萱天満宮と松岡神楽

寛文2年(1662)伊藤弥左衛門が天満宮を建立。平成20年、真萱地区民の総意により拝殿を再建しました。真萱神楽は昭和62年(1987)設立しました。平成10年に「松岡神楽」と名称を変更、神社の祭典、各種イベント、結婚式などで奉納しています。



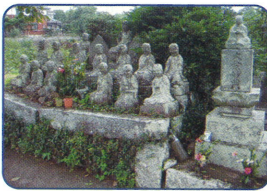
26 尾崎天満宮と大乗妙典塔

尾崎天満宮は正徳2年(1712)に建立。大正7年(1918)の火災、昭和26年(1951)のルース台風による倒壊など、度重なる損傷を受けながら補修して維持してきましたが、平成15年に本殿・幣殿・拝殿を新築しました。東九州自動車道の建設に伴ない石一文字の経典を納めた大乗妙典塔を、境内に移しています。



27 十六羅漢像

江戸末期(1860年代)、知本尼を開基とする尼僧庵があったと言われています。明治6年(1873)、この地に十六羅漢像が造られ、盛大に入仏供養が行われたと記されています。



28 井ノ久保遺跡(土師器工房跡)

平成8年(1996)東九州自動車道建設に伴う発掘調査の際、狭間川右岸の尾崎地区から、8棟の掘立柱建物跡の遺構と大量の土師器が出土しました。8世紀末から9世紀前半に土師器類を製作した一大工房跡と報告されています。



29 虫喰谷遺跡

狭間川の上流、宇虫喰谷の段丘から、旧石器・縄文・奈良時代の遺跡が出土しました。この地は現在東九州自動車道、国道197号南バイパス、県道松岡・日岡線などの幹線道路が走っています。



30 松岡古窯跡群

平成11年、尾崎地区宇猫原・標高100mの丘陵地急斜面で、須恵器(8世紀頃)を焼いた4基の窯跡が発見されました。出土品中の円面頃は、大分市内8箇所から出土していましたが、生産地は初発見、ここから官の施設へ供給していたと考えられています。この場所はパークプレイス大型店舗が並んでいます。

